

出題のねらい

大問Ⅰは文法力と語彙力を問う問題です。高校までで学ぶ文法事項や語彙・表現・ことわざなどが満遍なく問われます。

大問Ⅱは長文の空所補充問題です。文法力だけでなく、類出熟語の知識や、文脈を理解する力が問われます。

大問Ⅲは会話問題です。前後の名詞や代名詞が単数形か、複数形かを利用して選択肢を選ぶなど、前後の文脈を把握し、適切な応答をする力が問われています。また、会話の決まり文句が問われることもあります。

大問Ⅳは長文読解問題です。職場での世代間格差に対して、どのように考えたらよいかについて、述べられた文章で、英文の総合的な理解力を問う問題です。

大問Ⅴは並べ替えによる英文完成問題です。語句を並べ替え、意味が通る英文を完成させる文法力が問われています。

【Ⅰ】

【解答】 (20点)

1	④	2	④	3	③	4	②	5	①
6	④	7	④	8	④	9	①	10	④

(2点×10)

【解説】

- 関係代名詞の知識を問う問題。owner に冠詞がついていないこともヒントになる。
- much less…で「…は言うまでもなく」。
- 文末に yesterday とあることから、この文が過去の内容を表すものであると判断できる。この場合、must の後ろに have+ 過去分詞の形を取ることで、「…だったに違いない」という意味となる。
- the typhoon は名詞句なので、答えには名詞句をとるものを選ぶ。in spite of は「…にもかかわらず」、in stead of は「…の代わりに」。
- 文は動作ではなく、静的な状態を表している。このため現在形の stands を選ぶ。
- decide to…で「…することに決める」。
- 過去完了形の基本の形です。
- look up…in- で「- で (本・辞書で / コンピュータで) …を調べる」。
- 「家に着いたときに (着いたら) 洗濯をしないといけない」という意味になる。
- first come, first served で「先着順」という意味。

【Ⅱ】

【解答】 (30点)

11	⑤	12	⑦	13	②	14	⑨	15	④
16	⑩	17	⑥	18	③	19	⑧	20	①

(3点×10)

【解説】

- distant past で「遠い過去」。「チーズのようなものは大昔食べられていた」という意味。
- 後ろに than があることから、前に比較級の形がくる。このため、more expensive という形となる。
- appreciate で、「味わう」。
- disappeared で「消えた」。「侍の時代よりも前に消えた」という意味。
- be considered…で「…と考えられる」。worthy of… (「…に値する、ふさわしい」) も類出。
- turn out は「結局…になる、…だとわかる」。
- produce は「…を産出、生産する」。「農家が自分達の特別なチーズを生産し出した」という意味。
- 前に be 動詞があること、後ろに used to (使われている) があることから、総合的に判断する。
- as much as… 「…と同じくらい」という形。
- amount で「量」を表す。

【Ⅲ】

【解答】 (15点)

21	⑦	22	①	23	③	24	④	25	⑥
(3点×5)									

【解説】

- (21) 「すべての情報をオンラインで得るから、図書館には行かない」と言っている。
- (22) 選択肢は、「図書館を使うのは難しい」という意味。後ろに、「正しい本が見つからない」と言っていることがヒントになる。
- (23) (22) の続きで、「図書館をうまく使うには、練習が必要だ」となる。
- (24) 前半に「一緒に(図書館に)行けるかなあ」とある。選択肢は「今日、時間はありますか?」という意味。
- (25) 別れの挨拶の一つ。

【Ⅳ】

【大意】

「世代の違いによるものだと思います。」

私は自分のキャリアの中で、(世代間で) 混乱、意思疎通の不足、異なる視点、または異なる働き方のスタイルを説明するために何度このフレーズを聞いたか分かりません(そして時折、自分自身で使ったこともあります)。最近ではこのことがますます頻繁に起こっており、その理由ははっきりしています: 史上初めて、5つの異なる世代が職場で衝突していることです。それらは次のとおりです:

- ジェネレーション Z: 2001 年から 2020 年生まれ
- ミレニアル世代: 1981 年から 2000 年生まれ
- ジェネレーション X: 1965 年から 1980 年生まれ
- ベビーブーマー世代: 1946 年から 1964 年生まれ
- サイレントジェネレーション: 1925 年から 1945 年生まれ

彼らのオフィスでの相互関係はしばしば否定的に描写されます。例えば、ベビーブーマーは変化に抵抗するとされたり、ジェネレーション Z はスマートフォンに夢中だと言われたりしますが、専門家によれば、この限りではありません。実際、健全な職場環境のためには、そうでないことが不可欠です。

異なるライフステージの異なる人々が変化している中、これは簡単な課題ではありません。最近の LinkedIn の調査によれば、72%のジェネレーション Z および 66%のミレニアル世代が今後 12 か月でキャリアの変更を検討しているとあります。また、EY の別の調査では、仕事

を辞める意向のあるジェネレーション X の回答者のうち、約3分の1がハイブリッド勤務または在宅勤務の選択肢があれば考え直すと回答しています。雇用主は5つの異なる世代からの要求に対処する中で、バランスを取ることが求められています。世代間の関係を保つことが、平穏な職場を築く鍵となるようです。

「私たちは若い労働者がデジタルノマドになったり、早期のキャリアの人々が休暇を取ったり、中堅キャリアの人々が再スキルを身につけるために学校に戻ったり、親が休憩を取ったり、あらゆる年齢の人々が介護の責任を果たしたりしているのを見ています」と、世代間の溝を埋めることに焦点を当てた非営利団体 CoGenerate の副社長であるマーシ・アルボハーは述べています。「人々は引退を放棄して、目的、情熱、給与を組み合わせたアンコールキャリアを追求しているため、年齢を問わず様々な段階の人々が協力し、お互いをサポートし、近くにいる誰とでも協力することが求められています: 年齢を含むさまざまな違いを超えてです。」

先週、私はアルボハーの組織が後援する「5つの世代の労働力に備える」というパネルディスカッションに参加しました。以下はそのイベントの要点と、最近のトレンド、調査、および問題解決のための助言です。

世代はアイデンティティの一つに過ぎない

「世代」という言葉を、人生全体を考慮せずに、非難のために使用することには注意してください。例えば、ジェネレーション X のマネージャーが新しい戦略を承認する前に一度立ち止まり、深く検討するかもしれません。これは変化に抵抗したいからではなく、彼らが前の新規事業(の失敗)で、50人の従業員を解雇せざるを得なかった経験があり、それを再び経験したくないからかもしれません。また、ミレニアル世代の労働者は、配偶者が別の州で働いていたり、子供たちが午後7時に寝たりするなど、週末の家族の時間をとても大事にしているため、週末に電話をオフにしているかもしれません。

「『私は年配のミレニアル世代』とか『私は若いベビーブーマー世代』と言う人がいます」と、『Gentelligence: A Revolutionary Approach to Leading an Intergenerational Workforce』の著者であるメガン・ガーハートは語ります。「年齢や世代は、個々の経験により大きな影響を受けます。また、これにはジェンダー、人種、民族、経済的地位、文化、世界のどこにいても含まれることがあります。」

判断ではなく好奇心をもって理解しようとする

これらを参考に、異なる世代の同僚の行動に何が影

## 一般入試／英語(中期)

響しているか深く掘り下げて考えてください。「どうしてもそういう見方をするのか、理解するのを助けてください」というような単純なフレーズは、「なぜ考えるか、理解できません」というよりも遥かに進んでいます。前者はリクエストですが、後者は判断です。こうした会話が行われたときにのみ、仕事上の関係を築くために必要な信頼を築くことができます。

【解答】 (20点)

26	③	27	⑥	28	⑦	29	⑨
----	---	----	---	----	---	----	---

(順不同OK) (5点×4)

【解説】

- (26) 「LinkedIn の調査で、72%のジェネレーション Z および 66%のミレニアル世代が今後 12 か月でキャリアの変更を検討している」と述べられている。ジェネレーション Z、ミレニアル世代は共に 1981 年以降の生まれ。
- (27) 文中で「人々は引退を放棄して、目的、情熱、給与を組み合わせたアンコールキャリアを追求している」とある。
- (28) 文中に「例えば、ジェネレーション X のマネージャーが新しい戦略を承認する前に一度立ち止まり、深く検討するかもしれません。これは変化に抵抗したいからではなく、彼らが前の新規事業（の失敗）で、50 人の従業員を解雇せざるを得なかった経験があり、それを再び経験したくないからかもしれません。」とある。
- (29) 「世代はアイデンティティの一つに過ぎない」の後半部分で選択肢と同様の趣旨の内容が述べられている。

【V】

【解答】 (15点)

30	⑤	31	③
32	③	33	①
34	③	35	④

(複数択一) (5点×3)

【解説】

- 問1 much smaller than that of Japan が答え。比較級を強調する much の位置や than that of の用法が問われている。
- 問2 More than three months have passed が答え。「…以上の月日が経過した」という表現として重要。
- 問3 I saw Ryo playing baseball with が答え。